

東建パブリニユース

平成29年3月31日
経営管理本部 広報IR室

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。

刀剣の魅力 日本が誇る刀工文化



オンラインゲーム「刀剣乱舞」が話題となり、注目が高まっている刀剣。
草薙神剣を御神体とする熱田神宮や、「刃物のまち」として知られる岐阜県関市など、東海地区は歴史的に刀剣と縁の深い地域であり、あらためてその魅力を紹介いたします。

機能と美が融合した刀剣
国宝の指定数は123

平安時代末期に反りのある刀姿が完成し、以来、千年を越える歴史の中で、時代を反映した数多くの作品が生まれた日本刀。しなやかな鋼と硬い鋼を組み合わせる独自の鍛冶技術により「折れず、曲がらず、よく斬れる」と表現される優れた機能性は、古くから世界中の愛好家に認められてきました。また、日本の美術工芸品の国宝約900点の中には、111点の刀剣12点の刀外装が含まれており、美術工芸品としても高く評価されています。

刀剣類は長さによって分類され、30cm未満のものを「短刀」、60cm未満のものを「脇指」、60cm以上のものを「刀」や「太刀」と呼びます。「太刀」は鎌倉・南北朝時代に多く作られました。馬上で使用する為長く反りの深いものも多く見られます。一方「刀打ち」が登場するのは室町時代。これは騎馬戦から足軽の登場による地上戦へと戦法が変化したことに関連しています。また、「太刀」が刃を下にして腰から吊るすのに対し、「刀」は刃を上にして帯に差すという携帯方法の違いも両者を分類する基準となっています。



撮影：石岡圭平

取られる名刀が作られ、その後、政治や経済の中心地でもらに作刀技術が発展しました。特に大和、山城、備前、相州美濃では「五箇伝」と呼ばれる個性あふれる作風が生まれ、鎌倉時代から南北朝時代に最高潮を迎えます。現在国宝指定されている刀剣の多くが製作され、後の豊臣秀吉の時代「天下三作」に数えられた吉光、正宗、徳義弘の名品が生まれたのも、この時代なのです。

名刀は武器としてではなく、むしろ美術品として親しまれた

機能性と並び刀剣の魅力のひとつに挙げられるのが、神秘性を帯びた美しさです。あまり知られてはいませんが、歴史上、実際の戦で身分の高い武士によって「刀」や「太刀」が使われることは少なく、將軍（の御上）や家臣への下賜、家を守る。お守りや贈答品として用いられることが多かったといわれています。これは、格式が高く美しい刀剣を持つことは、貴族や武士にとってのステータスであり、神が宿る神聖なものとして大切に扱われていたことを意味します。1000年前の文献に、雲々の名、研ぎ澄ました刀を、秋の澄みわたる水にたとえて「秋水」と表現されていることから、刀剣がいかにかに高貴な存在であったかがうかがえます。現代においても、刀剣は所有に関する審査や免許は不要。登録がなければ誰でも売買ができるのは、古くから美術品として親しまれてきたからには変わりません。

1000年の時を超えて現代に息づく日本の刀工文化

美術品としての刀剣観賞は、まるで利き酒のように趣深いもの。知識を重ねるにつれ、振りここの個性が見分けられるようになり、刀剣の奥



撮影：セルゲイ・ミンガジェフ

深さに触れることができます。代表的な観賞ポイントは、作られた時代や地域性が表れる①全身の姿、②地鉄、③刃紋の3要素と切りわけ地鉄や刃紋には刀鍛冶の技量や意図が詰め込まれており、さまざまな角度から立体的に眺めることで、いろいろな景色を楽しむことができます。また、鞘の装飾も華やかでオリジナリティーにあふれており、当時の生活を垣間見ることができ、歴史に名前を残す武将に縁のある「振りこ」は、刀剣にまつわる物語に思いをはせるのも一興です。



撮影：セルゲイ・ミンガジェフ

2019年完成予定の「栄タワーヒルズ」に刀剣の魅力発信する博物館が誕生！

日本最大級の規模を誇る日本刀と甲冑の専門ギャラリー
私は愛知県岡崎市の生まれ、先祖は旅籠を経営していました。幼少期から刀を携えた旅人の話を聞いて育った影響が、先祖のつながりを求めるような感覚で刀剣の収集を始めました。最初に購入したのは20代後半で、以来、40年以上にわたるコレクションは200振りほどになります。実は刀剣収集は、離れた趣味。だったので、所有数が増えたこともあり、多くの人に知っていただくという思いに至り、「名古屋刀剣ワールド」を開館することになりました。

約300坪の展示面積に、重要文化財、重要美術品を中心とした200振りの刀剣と、約40体の鎧甲を常時展示する予定で、日本刀や甲冑のみを扱う博物館とは異なります。観光コンテンツが少ない名古屋において、注目のスポットになれるのではないかと考えています。

「KATANA」の魅力世界に特色あふれる展示法にも注目

「名古屋刀剣ワールド」は、初心者にも、深い知識を持った愛好家にも満足していただける博物館を目指します。「東海地区で流れた刀」や「名古屋に縁のある刀



東建コーポレーション(株) 代表取締役社長兼会長 左右田 隆徳 34

剣」など、フロアごとの展示コンセプトに変化を持たせ、勉強会ができるスペースも設けて、サークルや同好会といった交流の場としても活用いただける予定です。また、刀剣の教科書のような情報サイトを立ち上げ、世界に向けて「KATANA」の魅力発信していくことも検討しています。映像や音響など最新技術を活用し、従来の博物館の観賞を変える展示内容を企画していますので、ぜひご期待ください。

名古屋刀剣ワールド

2019年秋にオープンが予定される、刀剣と甲冑の博物館。東建コーポレーション株式会社(名古屋市中区)が、2019年春の竣工を予定するホテル型高層高級賃貸マンション「栄タワーヒルズ」内に設置され、約300坪の広大なスペースに、重要文化財、重要美術品、特別重要刀剣、重要刀剣など、貴重な日本刀が常時約200振り展示される。日本刀と甲冑を専門にした博物館としては日本最大級の規模を誇り、1階から4階にわたって5つの展示室が設けられ、最新のデジタル技術を活用した他に類を見ない展示も企画されている。

